

◆◆教育・保育施設等に係る市民ニーズアンケート調査結果のまとめ◆◆

(概要版)

1	目的	就学前児童数は年々減少している一方で、就園児数は増加の傾向にある中で、特に乳児の保育ニーズの高まりが見受けられ、希望する園に就園できない子どもが増加している。このため、保育に関する実情やニーズを的確に把握するとともに、今後の傾向を見通すことにより、保育サービスのさらなる充実につなげていく。
2	対象	就学前児童（就学前の子どもがいる世帯を対象に無作為抽出）
3	期間	平成29年7月3日～平成29年7月25日
4	配布数	2,400件
5	回収数	1,020件（回収率42.5%） ※平成25年度における同種調査 835件/2,000件（回収率41.8%）
6	調査から見える実情・傾向	<p>■項目全体（H25年度実施調査と同様の項目については比較対照を行った。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人親世帯が増えている。《問2》 ○44%が一人っ子世帯である。《問5》 ○核家族化が進行しているが、祖父母の近く住んでいる割合が高い。《問6》 ○母親の就労が大きく伸び、夫婦共働きが増えている。《問7》 ○現在、就労していない母親の就労希望が大きく増えている。《問14》 ○施設を利用しない理由として、「希望園に空きがない」が増加している。《問20》 ○施設を利用しない理由として、「子どもが小さい（年齢）」と回答した者が就園させたい年齢は3歳が最も多い。《問21》 ○幼稚園の利用希望は減っているのに対し、保育所の利用希望が増加している。《問21》 ○こども園への期待度が大きい。《問21》 ○教育・保育施設を利用したい理由として、就労という理由が増加している。《問24》 専業主婦は、子どもが3～5歳になると大きく減少する。《クロス2》 ○父母ともフルタイムで就労している家庭は、子どもが1～2歳になれば、就園希望が100%となっている。《クロス3》 ○父母がフルタイムとパートタイムで就労している家庭は、子どもが3～5歳になれば、就園希望が100%となっている。《クロス3》 <p>■自由記述（総括）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○しっかりと保育をしてもらっている。園によって質の差が出ないようにして欲しい。 ○延長保育や一時預かりなど、必要な時に確実に預かってもらえるようにしてほしい。 ○保育料の負担軽減措置を充実してほしい。 ○入所待ちがなくなるよう対策を講じてほしい。 ○幼稚園はそれぞれ特色があってよいが、保育日数が増えるとありがたい。 ○まとまった施設案内の作成や子育て情報の発信等を充実させてほしい。
7	調査結果の活用	本調査結果をふまえ、今後の保育の量の見込み等を推計し、必要な対応策を講じる。